

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01504

研究課題名（和文）日本企業の為替変動への耐久力：国際価値連鎖の中での為替リスク管理と価格設定行動

研究課題名（英文）How Japanese Firms Accommodate to Yen Appreciation? Exchange Risk Management and Pricing Strategy under Global Value Chains

研究代表者

佐藤 清隆 (Kiyotaka, Sato)

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授

研究者番号：30311319

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：大幅な為替変動に直面してきた日本企業が、どのように戦略的に為替変動リスクに対処してきたかを実証的に分析した。単なる公表データの分析にとどまらず、日本企業へのインタビュー調査とアンケート調査を駆使して、企業の為替リスク管理手法、貿易建値通貨選択、価格設定行動に関する分析を行なった。また、財務省の輸出入申告統計を利用する研究の公募プロジェクトに採択され、同申告統計を用いた実証研究を進めた。以上の研究成果は、国内外の学会で発表し、Discussion PaperやWorking Paperとして公表した。それら公表論文は、査読付きの国際ジャーナルに投稿中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際金融の分野では、輸出企業の価格設定行動や貿易建値通貨選択の実証研究が高い注目を集めており、近年では欧米諸国の税関データを用いた実証研究が盛んに発表されている。本研究は、企業アンケート調査に基づく個票データと、財務省の公募プロジェクトによる日本の輸出入申告統計を用いた実証分析によって、日本企業の貿易建値通貨選択や為替リスク管理に関する最先端の研究成果を発表している。この研究成果は、絶えず為替レートの変動の影響を受ける日本企業にとって、どのような為替リスク管理を行うべきかに関する指針となりうる。また、企業関係者、官公庁の政策担当者、大学生向けに、上記の学術的研究成果を本にまとめて出版している。

研究成果の概要（英文）：This project empirically investigated how Japanese firms have managed foreign exchange risk in response to considerable exchange rate fluctuations. In addition to publicly available data, the project conducted a questionnaire survey with Japanese manufacturing firms to obtain unique firm-level data for empirical analysis. The project was also approved to use the Japan Customs import and export declaration data for empirical investigation. The research outputs were presented at academic conferences and workshops. They were also published as a Discussion/Working Paper and are currently under review by reputed refereed journals.

研究分野：国際金融

キーワード：輸出価格設定行動 為替リスク管理 国際価値連鎖 産業関連分析 貿易建値通貨

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本経済は常に大きな為替レート変動の影響を受けてきた。2000年以降に絞っても、「2007年から2012年後半までの歴史的な円高局面」と「2012年末から2015年末までの急激な円安局面」を経験した。注目すべきは歴史的な円高局面で大きく低下した実質輸出(輸出数量指数)が2012年末から円安局面に入っても低迷を続けたという事実である。この実質輸出が伸びない理由は、研究代表者の佐藤と研究分担者の清水が清水・佐藤(2014)において検討した。同論文では、日本企業が円高局面で低付加価値の輸出財を海外生産へとシフトさせ、国内での生産は高付加価値の輸出財に絞った結果、2012年末からの円安局面でも輸出企業は価格引き下げを行わず、PTM行動をとって巨額の為替差益を享受した、という仮説を提示した。この考え方は現在ほぼ定着しているようである(例:日本経済新聞2018年6月28日〔朝刊〕「エコノフォーカス:日本の製造業、為替の壁破る」)

しかし、日本企業が本当に為替変動に対する耐久力を身につけているか否かの実証的な分析は十分に行われていない。第一に、円高局面と円安局面で企業の価格設定行動や輸出行動は異なる可能性がある。日本経済は2007年から2012年後半までの一貫した円高局面と、2012年末から2015年末までの一貫した円安局面を経験した。「この二つの為替変動局面において日本企業の輸出入における価格設定行動がどのように変化したか」を厳密に分析する必要がある。

第二に、日本企業の生産ネットワークの発展によって企業の為替変動に対する耐久力がどう変わったかを分析することが重要である。

既存の研究は財務省の貿易統計など詳細な品目別貿易データを用いて、為替レートの変動が日本の輸出数量もしくは輸入数量に及ぼす影響(輸出・輸入の為替感応度)の分析、あるいは為替レートのパススルー分析を行ってきた。しかし、日本企業の国際的な生産ネットワークの拡大によって、企業の為替変動に対する耐久力が大きく変化している可能性がある。

例えば、国際的な生産連鎖やサプライチェーンが日系現地法人同士の取引(企業内貿易)である場合、国境を越える取引であっても為替レートの変動によって輸出・輸入が減少しない可能性がある。さらに、日本の輸出・輸入が国際価値連鎖の中に組み込まれるケースも考慮する必要がある。このように「国際価値連鎖の中で為替感応度や企業の価格設定行動がどのように変化しているかを分析する」ことによって、常に大きな為替変動に直面してきた日本企業の耐久力を明らかにすることが可能となる。

2. 研究の目的

「本研究の目的」は、大幅な為替レートの変動に常に直面してきた日本企業が為替変動に対する「耐久力」を高めてきているか否かを実証的に分析することにある。特に2007年以降経験した歴史的な円高局面と2012年末からの急激な円安局面において、日本企業がどのように価格設定行動や為替リスク管理を変化させてきたのか、アジアを中心とした国際生産ネットワークの構築・発展によって、為替変動が企業の輸出・輸入の価格設定行動に及ぼす影響がどのように変化しているか、企業の為替リスク管理にどのような変化が生じているかを分析する。

3. 研究の方法

本研究は、(1) 為替レートのパススルー分析に非線形の時系列分析を応用する研究に加えて、(2) 為替レートの実証分析に「産業連関分析」を応用し、さらに(3)「企業レベル」もしくは税関申告統計を用いた「取引レベル(transaction level)」のデータを用いた実証分析を行う点にある。

(1) 通貨高、通貨安の両局面で輸出企業の価格設定行動(為替パススルー行動)がどのように異なるかを実証的に分析した研究は考えられ存在するが、先行研究のほとんどが為替レートが短期的に通貨高または通貨安のどちらに変化するか、その短期的な変動の方向に基づいて当該通貨の通貨高局面と通貨安局面を区別していた。しかし、日本のリーマンショックから2011-12年までの歴史的円高水準までの明らかな円高トレンドにおいても、短期的には為替レートは上下変動をするため、先行研究の手法を用いると、円高トレンドであるにもかかわらず円安局面と分類されてしまう。このような円高、円安局面の識別問題を乗り越えるために、本研究では日本銀行が公表する「予想為替レート」のデータを用いた新しい識別方法を提案する。実際的为替レート(実現値)が予想為替レートを超えた場合は「予想を超えた円安局面」、予想為替レートを下回った場合は「予想を超えた円高局面」と定義し、非線形のARDLモデルを用いて分析を行う

た。

(2) 為替レートの変動が輸出・輸入に及ぼす影響に関する実証研究はこれまで数多く発表されている。近年、各国企業が国際的な生産ネットワークに構築もしくは参加することで、生産と輸出・販売の連鎖が世界中に張り巡らされるようになった。このような国際価値連鎖(Global Value Chain: GVC)に加わることで、GVC 内の輸出入に対する為替レートの影響が変化している可能性がある。Koopman et al. (2010), Wang et al. (2013) が提案する指標「GVC 参加率 (Participation Rate)」すなわち各国の輸出入が国際価値連鎖 (GVC) にどの程度含まれているかを示す指標を国際産業連関表を用いて構築し、為替レートが輸出入に及ぼす影響が GVC 参加率の有無でどう異なるかを、詳細な産業レベルによるパネル推定によって分析を行った。

(3) 本研究は企業レベルのデータを用いた分析を行う。日本の製造業上場企業に対するアンケート調査から得られたデータを用いて、日本企業の輸出価格設定行動と建値通貨選択、為替リスク管理に関する分析を行う。また、日本の税関データに基づく実証分析を行う。近年の為替パススルー研究では、非公表の税関申告統計 (個票データ) を用いた取引レベルの建値通貨選択と為替パススルーの実証分析が盛んに行われている。本研究は、財務省が 2022 年から開始した公募プロジェクトに採択され、その使用が認められた税関申告統計を活用して、日本企業の建値通貨選択と価格設定行動の実証分析を行う。

4. 研究成果

研究(1)については、日本銀行『短観』で公表されている産業別の予想為替レートを用いて「予想を超えた円高・円安局面」を区別し、非線形の ARDL モデルによって分析を行った Nguyen and Sato (2019)を国際ジャーナルに発表した。また、Near-VAR モデルにより構造ショックを識別し、日本の輸出価格が為替レートショックによってどのような影響を受けたかを、為替パススルーの文脈で分析した Nguyen and Sato (2020)も国際ジャーナルに掲載した。また Liu and Sato (2024)は、Nguyen and Sato (2019)の分析手法を発展させ、Multiple-thresholds を組み入れた非線形 ARDL モデルを用いて、予想を超えた円高・円安だけでなく、為替レートの水準も考慮した為替変動局面の区別と、その推定方法を提案している。

研究(2)については、国際価値連鎖の中で為替レートが輸出入に及ぼす影響を分析した Sato and Zhang (2019)がある。具体的には、OECD の国際産業連関表を用いて GVC 参加率のデータを構築し、国際価値連鎖に沿った貿易では為替レートの変動が輸出に及ぼす影響が弱められることを明らかにしている。同論文は Discussion Paper として公表した後、改訂を重ねて国際ジャーナルに投稿中である。Sato, Shimizu, Shrestha and Zhang (2020)では、産業別の実質実効為替レートを用いて、アジア諸国の輸出における実質実効為替レートの影響を産業別に分析している。同論文でも、国際価値連鎖に沿った輸出では実質実効為替レートの増価が実質輸出に及ぼす負の影響が軽減されることを実証している。

また、関連する研究として、Kawasaki and Sato (2021)ではアジア諸国間の経済統合の進展度を産業別に分析するために、世界 29 カ国の産業別生産者物価指数を用いて、M-TAR (Momentum Threshold Autoregressive)モデルによる分析を行っている。産業ごとに経済統合のダイナミクスが異なることを考慮した分析を行った結果、電気・電子機器産業と輸送用機器産業において経済統合が進展していることを明らかにしている。また、Shrestha and Sato (2021)では国際産業連関表に基づいて、中国や米国で生じた経済ショックが世界各国にどのように波及するのか、そのメカニズムを明らかにしている。

研究(3)については、経済産業省 (RIETI) の研究プロジェクトを通じて実施した日系海外現地法人企業向けアンケート調査結果概要を、伊藤・鯉淵・佐藤・清水・吉見 (2019)と、佐藤・鯉淵・伊藤・清水・吉見 (2024)の 2 度にわたって公表した。また、これまでの日本企業に対するアンケート調査とインタビュー調査の結果をまとめて、清水・伊藤・鯉淵・佐藤 (2021)として刊行した。2022 年に入って円安が急速に進んだことを受けて清水 (2022)を刊行し、さらに円安進行とともに円の実力低下が盛んに指摘されたことを受けて、円をめぐる為替レート変動と日本企業の通貨戦略を包括的に考察した佐藤 (2023)を刊行した。

財務省の申告統計を利用した実証研究の成果は、清水・伊藤・佐藤・吉見・安藤・吉元 (2022)、Yoshimi, Yoshimoto, Sato, Ito, Shimizu, Yoshida (2024)、Yoshida, Shimizu, Ito, Sato, Yoshimi, Yoshimoto (2024)として公表し、英語論文 2 本は国際ジャーナルに投稿中である。この日本の税関申告統計とは直接の関係はないが、Montfaucon, Sato, Shrestha and Parsons (2021)はアフリカのマラウィの税関申告統計を用いて、マラウィの輸入における為替レートのパススルー分析を行っている。また、Nishikawa and Sato (2024)は 1998 年 4 月の外為法改正が日本企業の為替リスク管理にどのような影響を及ぼしたかについて、日本の自動車企業の財務データを用いて実証分析を行っている。

最後に、為替パススルーや建値通貨選択と関連する研究として、Keddad and Sato (2022)は中国人民元とアジア諸国通貨との間の為替レートの連動性を Markov Switching モデルを用いて分析しており、Ong and Sato (2023)はアジア諸国において人民元の影響力が強くなっているか否かを、為替レート及び株価リターンの連動性に関する時系列分析によって明らかにしている。

< 引用文献 >

Kawasaki, Kentaro and Kiyotaka Sato, 2021. "A New Assessment of Economic Integration in East Asia: Application of an Industry-Specific G-PPP Model," *Japan and the World Economy*, 60 (December), 101105.

Keddad, Benjamin and Kiyotaka Sato, 2022. "The influence of the renminbi and its macroeconomic determinants: A new Chinese monetary order in Asia?" *Journal of International Financial Markets, Institutions & Money*, 79 (July), 101586.

Koopman, R., W. Powers, Z. Wang, S.J. Wei, 2010. "Give Credit Where Credit Is Due: Tracing Value Added in Global Production Chains," NBER Working Paper 16426.

Liu, Nan and Kiyotaka Sato, 2024. "Asymmetric Exchange Rate Pass-through between Unexpected Yen Appreciation and Depreciation: The case for Japanese machinery exports," RIETI Discussion Paper Series 24-E-008.

Montfaucon, Angella Faith, Kiyotaka Sato, Nagendra Shrestha and Craig Parsons, 2021. "Exchange Rate Pass-Through and Invoicing Currency Choice between Fixed and Floating Exchange Rate Regimes: Evidence from Malawi's Transaction-Level Data," *Economic Analysis and Policy*, 72 (December), pp. 562–577.

Nguyen, Thi-Ngoc Anh and Kiyotaka Sato, 2019. "Firm Predicted Exchange Rates and Nonlinearities in Pricing-to-Market," *Journal of the Japanese and International Economies*, 53 (September).

Nguyen, Thi-Ngoc Anh and Kiyotaka Sato, 2020. "Invoice Currency Choice, Nonlinearities and Exchange Rate Pass-Through," *Applied Economics*, 52(10), pp.1048–1069.

Nishikawa, Teru and Kiyotaka Sato, 2024. "Foreign Exchange Liberalization and Exchange Rate Exposure: Firm-Level Evidence of the Japanese Automobile Industry," CESSA Working Paper 2024-01, Yokohama National University.

Ong, Sheue Li and Kiyotaka Sato, 2023. "RMB Bloc or Dollar Bloc? China's Monetary and Financial Influences on Asia," in Désiré Avom and Gilles Dufrénot, eds., *Topical Issues in International Development and Economics*, Cambridge Scholars Publishing, Chapter 14, pp.429–459.

Sato, Kiyotaka and Shajuan Zhang, 2019. "Do Exchange Rate Matters in Global Value Chains?" RIETI Discussion Paper Series, 19-E-059.

Sato, Kiyotaka, Junko Shimizu, Nagendra Shrestha, Shajuan Zhang, 2020. "New empirical assessment of export price competitiveness: Industry-specific real effective exchange rates in Asia," *North American Journal of Economics and Finance*, 54, 101262.

Shrestha, Nagendra and Kiyotaka Sato, 2021. "Global and regional shock transmission: an Asian perspective," *Journal of Economic Structures*, 10, Article Number 27.

Yoshimi, Taiyo, Uraku Yoshimoto, Kiyotaka Sato, Takatoshi Ito, Junko Shimizu, Yushi Yoshida, 2024. "Invoice Currency Choice in Intra-Firm Trade: A Transaction-Level Analysis of Japanese Automobile Exports," NBER Working Paper 32142.

Yoshida, Yushi, Junko Shimizu, Takatoshi Ito, Kiyotaka Sato, Taiyo Yoshimi, Uraku Yoshimoto, 2024. "Invoicing Currency Choice: Strategic Complementarities and Currency Matching," NBER Working Paper 32276.

Wang, Z., S.J. Wei and K. Zhu, 2013. "Quantifying International Production Sharing at the Bilateral and Sector Level." NBER Working Paper 19677.

伊藤隆敏・鯉淵賢・佐藤清隆・清水順子・吉見太洋 (2019) 「日本企業の為替リスク管理とインボイス通貨選択:平成 30 年度日本企業の海外現地法人アンケート調査結果概要」RIETI Discussion Paper Series 19-J-042.

佐藤清隆 (2023) 『円の実力：為替変動と日本企業の通貨戦略』(慶應義塾大学出版会.)

佐藤清隆・鯉淵賢・伊藤隆敏・清水順子・吉見太洋 (2024) 「日本企業の為替リスク管理とインボイス通貨選択：2022 年度日本企業の海外現地法人に対するアンケート調査結果概要」RIETI Discussion Paper Series 24-J-002.

清水順子・佐藤清隆 (2014) 「アベノミクスと円安、貿易赤字、日本の輸出競争力」RIETI Discussion Paper Series 14-J-022.

清水順子、伊藤隆敏、鯉淵賢、佐藤清隆 (2021) 『日本企業の為替リスク管理：通貨選択の合理性・戦略・パズル』(日経 BP 日本経済新聞出版本部.)

清水順子・伊藤隆敏・佐藤清隆・吉見太洋・安藤健太・吉元宇楽 (2022) 「日本企業の貿易建値通貨選択 - 税関データを集計した各国別インボイス通貨シェアからわかること - 」PRI Discussion Paper Series (No.22A-04).

清水順子 (2022) 『悪い円安 良い円安』(日経 BP 日本経済新聞出版本部.)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Keddad Benjamin, Sato Kiyotaka	4. 巻 79
2. 論文標題 The influence of the renminbi and its macroeconomic determinants: A new Chinese monetary order in Asia?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of International Financial Markets, Institutions and Money	6. 最初と最後の頁 101586 ~ 101586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.intfin.2022.101586	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Montfaucon Angella Faith, Sato Kiyotaka, Shrestha Nagendra, Parsons Craig	4. 巻 72
2. 論文標題 Exchange rate pass-through and invoicing currency choice between fixed and floating exchange rate regimes: Evidence from Malawi's transaction-level data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Economic Analysis and Policy	6. 最初と最後の頁 562 ~ 577
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.eap.2021.09.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kawasaki Kentaro, Sato Kiyotaka	4. 巻 60
2. 論文標題 A new assessment of economic integration in East Asia: Application of an industry-specific G-PPP model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 101105 ~ 101105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2021.101105	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shrestha Nagendra, Sato Kiyotaka	4. 巻 10
2. 論文標題 Global and regional shock transmission: an Asian perspective	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Economic Structures	6. 最初と最後の頁 1 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40008-021-00257-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen Thi-Ngoc Anh, Sato Kiyotaka	4. 巻 53
2. 論文標題 Firm predicted exchange rates and nonlinearities in pricing-to-market	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101035 ~ 101035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2019.101035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nguyen Thi-Ngoc Anh, Sato Kiyotaka	4. 巻 52
2. 論文標題 Invoice currency choice, nonlinearities and exchange rate pass-through	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Applied Economics	6. 最初と最後の頁 1048 ~ 1069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00036846.2019.1650884	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato Kiyotaka, Shimizu Junko, Shrestha Nagendra, Zhang Shajuan	4. 巻 54
2. 論文標題 New empirical assessment of export price competitiveness: Industry-specific real effective exchange rates in Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The North American Journal of Economics and Finance	6. 最初と最後の頁 101262 ~ 101262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.najef.2020.101262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Luu Hai Dang and Kiyotaka Sato
2. 発表標題 Green Trade and Environment: Evidence for Asia-Pacific Economic Cooperation (APEC)
3. 学会等名 17th East Asian Economic Association International Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lapukeni, Angella Faith and Kiyotaka Sato
2. 発表標題 Invoice Currency Choice in Malawi 's Imports from Asia: Is There Any Evidence of Renminbi Internationalization?
3. 学会等名 RIETI-IWEP-CESSA Joint-Workshop on "Current Issues in the World Economy: Exchange Rate, Invoice Currency, Price Transmission and Localization"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Kiyotaka and Shajuan Zhang
2. 発表標題 Do Exchange Rates Matter in Global Value Chains?
3. 学会等名 YNU-AMSE Joint Workshop "Exchange Rate, Trade, and Productivity in Asia and the World"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Liu, Nan and Kiyotaka Sato
2. 発表標題 Nonlinear ARDL Estimation of Exchange Rate Pass-Through in Japanese Exports: Any Difference between Yen Appreciation and Depreciation Periods?
3. 学会等名 The 18th International Convention of the East Asian Economic Association (EAEA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nguyen, Phuong Thao and Kiyotaka Sato
2. 発表標題 What Determines the Exchange Rate Exposure of Vietnamese Firms?
3. 学会等名 The 18th International Convention of the East Asian Economic Association (EAEA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nishikawa, Teru and Kiyotaka Sato
2. 発表標題 Foreign Exchange Liberalization and Exchange Rate Exposure: Firm-Level Evidence of the Japanese Automobile Industry
3. 学会等名 The 18th International Convention of the East Asian Economic Association (EAEA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 清水順子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日経BP 日本経済新聞出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 悪い円安 良い円安	

1. 著者名 清水 順子、伊藤 隆敏、鯉淵 賢、佐藤 清隆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日経BP 日本経済新聞出版本部	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本企業の為替リスク管理：通貨選択の合理性・戦略・パズル	

1. 著者名 佐藤 清隆	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 円の実力：為替変動と日本企業の通貨戦略	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	SHRESTHA N. P. (Shrestha Nagendra) (10647316)	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・准教授 (12701)	
研究分担者	章 沙娟 (Zhang Shajuan) (20783236)	中央大学・経済学部・助教 (32641)	
研究分担者	清水 順子 (Shimizu Junko) (70377068)	学習院大学・経済学部・教授 (32606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 RIETI-IWEP-CESSA International Workshop (Online) on “Exchange Rate and International Currency”	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 French-Japanese Webinar in Economics (FJWE)	開催年 2022年～2023年
国際研究集会 RIETI-IWEP-CESSA Joint-Workshop on "Current Issues in the World Economy: Exchange Rate, Invoice Currency, Price Transmission and Localization"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 YNU-AMSE Joint Workshop on “Exchange Rate, Trade, and Productivity in Asia and the World”	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関